



会派挨拶

「せんだい自民党」

私たち「せんだい自民党」は令和3年9月1日に結成しました。市政与党でも野党でもない市民与党の立場で様々な課題解決に取り組み、市民の皆様に信頼していただけるよう、私たちの活動を会派広報紙を通して発信してまいります。さらに議会に関心を持っていただけるよう、フェイスブックで積極的に活動をお伝えしてまいります。市民の皆さまと同じ目線で、全員で力を合わせて頑張ってまいりますので「せんだい自民党」へのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

<p>田村 勝 宮城野区(1期) 副政調会長</p> <ul style="list-style-type: none"> ●市民教育委員会委員 ●防災・減災推進調査特別委員会委員 	<p>菊地 崇良 若林区(3期) 政調会長</p> <ul style="list-style-type: none"> ●健康福祉委員会委員 ●文化芸術・スポーツ振興調査特別委員会委員 	<p>佐々木 心 太白区(2期) 幹事長</p> <ul style="list-style-type: none"> ●総務財政委員会委員 ●人生100年時代調査特別委員会委員 	<p>あとべ 薫 青葉区(4期) 会長</p> <ul style="list-style-type: none"> ●都市整備建設委員会委員 ●歴史まちづくり調査特別委員会委員 	<p>村岡たかこ 青葉区(1期) 副幹事長</p> <ul style="list-style-type: none"> ●経済環境委員会委員 ●歴史まちづくり調査特別委員会委員 	<p>斎藤 範夫 泉区(5期) 幹事</p> <ul style="list-style-type: none"> ●総務財政委員会委員 ●防災・減災推進調査特別委員会委員 	<p>佐藤 正昭 若林区(8期) 幹事</p> <ul style="list-style-type: none"> ●経済環境委員会委員 ●子育て環境充実特別委員会委員
---	--	--	--	--	---	--

令和3年9月 仙台市議会第3回定例会 所属議員の主な質疑・提言



佐々木 心

「せんだい自民党」初の代表質疑!

- コロナ禍対策、水道事業、病院統合推進には国・県・他自治体との信頼と連携が必須
- コロナ禍経済対策の申請手続きを簡素化
- 小6~中3など、若い世代へのワクチン接種の具体化と発信
- 災害激甚化に応じた宅地擁壁の被害防止の自主支援策を急げ
- 市営バスは年間30億円の赤字。市民協働と民間力で地域交通をスピードアップ!
- 令和2年度決算は東日本大震災時を超え6,522億円。厳しい財政運営への対策
- 市長選投票率は過去最低の29.09%。有権者の7割棄権、白票等は1万票で過去最高率!
- ガス事業民営化公募が見送り。市政トップの責任問題
- 4病院統合化による地域医療・救急医療の影響大。市としての取り組みを



- 令和3年度仙台市一般会計補正予算(第14号)
- 会派による市長への緊急要請と代表質疑で12~15歳限定のワクチン接種が実現!
 - 第5波収束の方向に油断せず、市民の命と生活・経済を守るため最大の警戒を
 - 売上減少額70%以上の対象新設と支給額の増額は、会派の緊急要請等を反映したものであり評価
 - 本市の事業者を守り、新規事業者を募る手立ての試案が急務。本市独自の経済対策を!
- 決算等審査特別委員会
- 市立病院のヘリポート活用実績と費用
 - 待機児童解消の取り組み
 - 国勢調査の活用
 - 職員のハラスメント対策
 - 選挙投票所準備と開票事務



田村 勝

本会議(一般質問)

- 東部沿岸・蒲生北部区画整理事業
 - スポーツの環境整備 ○通学路点検
 - LINEを利用した市政の情報発信
 - 感染不安による不登校の現状
 - オンライン授業 ○プログラミング授業
- 決算等審査特別委員会
- 地域ゴミ出し支援活動
 - ゴミ屋敷条例制定提言
 - 企業誘致実績と税収効果
 - 津波被災地域支援事業
 - 東部沿岸部の賑わいづくり



村岡たかこ

本会議(一般質問)

- アドボケート導入について
 - ヤングケアラーの定義
 - 子どもの意見表明権
 - はぐくみ教室の拡充
 - 4病院再整備案について
 - 児童生徒の自死の検証や再発防止策
- 決算等審査特別委員会
- 空き家対策について
 - 早期湛水深水管理の水稲栽培
 - 命を大切にする教育の推進



Q. ウィズコロナを見据え、各区まちづくり事業の実施経験からの学びを今後どう活かすか?
A. コロナ禍で取り組んだ事例を参考に、地域の方々とより良い事業の在り方を考えていく。



菊地 崇良

決算等審査特別委員会

- 子供の自死防止等の救済体制の見直しと再編
 - 35人以下学級の検証と対策
市長は35人以下学級を導入(年間約4億円)したが、不登校・暴力事件は増加し、教員の多忙感や不祥事も減っていない。都合の悪いことから目を背けず客観的なデータに基づく検証と対策が必要
 - 消防ヘリコプターの経費負担
市の消防ヘリコプター2機(1機あたりの平均年間整備費は約1億)は宮城県域で任にあっている。県による適切な経費負担を調整すべき
- 常任委員会(健康福祉局・子供未来局・市立病院)
- 若者のワクチン接種率の改善策
 - 状況の把握と公開、希望者への接種機会を増やすべき。特に受験生への配慮を



佐藤 正昭

本会議(一般質問)

- 市の付属機関等の委員選任
DX技術に精通している若い人材、新しい技術、知恵、新しい感覚、感性をもった若者を委員に積極的に登用し、時代に合った委員会にすべし!
- ガス事業民営化
現行のガス料金、供給エリア、サービス水準の維持が公営では何かと制約があり難しくなった。民間の知恵と工夫で市民へ、今以上のサービスを提供するための民営化にすべし!



あとべ 薫

決算等審査特別委員会

- (公共施設の将来負担)
- 公共施設の長期的見直し、推計について
 - 震災から10年が経過し、認識・問題意識は
 - 各種事業は、将来の負担増を考慮して整備したのか?
 - 専門家による「平時から人口の変化を見極めて施設等の適正化は非常に重要」との見解について
 - 「市営住宅の適正化に関する推計」は将来を見通した推計を作成することが重要
- (待機児童問題)
- 少子化・ニーズの多様化等、複雑化する状況下では民間活力の活用などが効果的
 - 「配慮を要する子」に対する本市の取り組みにあるスーパーバイズ事業の内容と対象
 - 子どもの発達障害判定には専門家の意見が必要では?
 - アールでの相談の現在の待ち時間
 - 本人、保護者、家族に寄り添った支援の重要性



斎藤 範夫

決算等審査特別委員会

- 財政に対する監査意見は極めて厳しい。市長は大ナタを振るう考えがあるのか
- コロナ禍で需要が高まっている家庭用電気式生ごみ処理機の助成再開
- 門前除雪は市民に呼び掛けるだけでなく公共施設でも徹底を
- 過去の豪雨災害を踏まえた内水氾濫対策や宅地防災の現状と課題を問う
- ガス事業民営化失敗の検証は、手前味噌ではなく第三者委員会で行うべき
- パリアフリーの更なる推進
- フードバンク事業への支援の充実を
- 教育の諸問題解決に向けて
- 病院再編問題と医療の確保について問う
- 要配慮者利用施設の避難確保対策の徹底を